

【市長と語る懇談会 記録】

開催日 平成 25 年 6 月 15 日（土）
地区/会場 上野小学校区/沼木地区コミュニティセンター
参加者数 24 人



《質問・意見》

（各学区の意見の資料について）これはどういう内容で、どういう方々に聞かれたものなのか。早修学区のところに学校の統廃合のことが挙がっている。沼木でも検討しているところだが、今日、出ていないのはどうしてか。これからということか。

《回答》

資料は 24 小学校区を回って参加していただいた方々の意見。

今、小中学校の統廃合を進めている。子どもの数が団塊の世代に比べると半数になり、複式学級になってしまう。人口が減っていくことに対し、再構築ということは理解してもらえるが、統廃合となると理解してもらいにくい。統廃合はきちんと話し合いをして進めていきたい。現在、（統廃合の）第 1 期でもある沿岸部で災害対策とともに進めている。その後、他の地域の皆さんと話し合いを進めていきたいが、スケジュールどおりの進捗は難しいかもしれない。子ども達の教育環境をいかにしていくべきかという議論をしながら進めていきたいので、ご協力をお願いしたい。

《質問・意見》

3. 11 福島原発事故の後、中電浜岡原発再稼働反対の申し入れを行ったことは、素晴らしい。安倍内閣は原発再稼働推進の方向で、前のめりで動いているが、それに対して、脱原発首長会議の動きが見えてこない。やっているなら教えて欲しいし、国民にアピールできる形で動いて欲しい。もう一点は中電芦浜原発について、2030 年に作るという噂が漏れ聞こえてくる。次期の遷宮の時期であるし、伊勢神宮と原発は相容れないという国民世論を作って欲しい。脱原発首長会議でそういう動きを作って欲しい。

《回答》

首長会議は、事務局にお金がなく間借りしている状態で、実働できていないのが現実。参議院選が近づいている中、それぞれで行動しているが、話はさせていただく。一番メインにやっているのは、再稼働でも廃炉でも 30 年から 40 年以上は付き合いをする必要があり、三連動地震が起こった際には原発に対して大きな影響があり、避難が必要となるので、避難計画や起こった場合

の対策をどうしていくかということに力を入れている。今、原発が動いていない状況で2年が過ぎてきており、新設は論外と考えている。

《質問・意見》

南島線で中学生や高校生が自転車通学をしている。朝夕のラッシュの時には非常に危険。早くからバスの運行とかでているが、いつになったらできるのか。一日でも早く自転車通学をしなくてもいいように願います。

《回答》

道路の整備とスクールバスの二つの方法がある。通学路の交通安全対策については優先順位をつけて進めているところである。

《質問・意見》

通学については、バスや自転車を使わず、歩いて、四季の植物や昆虫などを観察しながら、道草をして学校へ行くほうが将来の教育のためにはいいので、いろいろ問題もあると思うが、そういう方法をとることを薦める。

《回答》

通学路は道中で学ぶこともたくさんあるし、一方で交通安全対策も必要。いろいろな視点があってその中で議論することが大切。道路などのハード整備は市が担当するが、通学時の送り迎えや見守りは、学校と家庭と地域で助け合いながらご協力いただきたい。

《質問・意見》

東日本大震災から、海拔の表示が目につく。避難所の定義がなされたが、決められたところに避難することは厳しい。高台への避難が考えられるが、市内から沼木地区への避難は何人くらいを想定しているのか、その際、市はどのような対策をとってくれるのか。また、津波避難タワーはこれから何基くらいつくるのか。できれば、全国に先駆け、伊勢市は津波避難タワーのまちというくらい、多く建てて欲しい。

《回答》

避難所の運営のあり方について、具体的にどれくらいの人を避難誘導させるかという計算はこれからという状況。現実としては、昨年、二見地区全体での避難訓練で、どういう避難経路を使うかを検討した。時間帯、天候で経路が違うため、逃げ方を優先して取り組んでいる。今年度は宮川左岸の区域で防災訓練をやっていく。次の段階として、避難所の運営や大きな課題である要援護者避難支援について議論していきたい。

《質問・意見》

団地に鹿が多くなり、車と衝突することもある。昼でもいるが、夜は30頭くらいいる状況。農地には柵が施され対策されているが、団地内の対策も考えて欲しい。

《回答》

獣害対策は農家中心に考えられていて、団地への対策は追い払い位しかやれていない。大変多

い状況を聞いたので検討したい。

《質問・意見》

前年度も鳥獣害対策の防護柵を要望している。年々鹿は多くなっており、津村町、円座町が先に金網で対策を講じたため、上野町はますます多くなった。今年度も要望しているが、状況をご理解いただき、防護柵の設置をお願いしたい。

《回答》

最終的には山林を囲むしかない。鳥獣も賢くなるし、生態系を壊すわけにもいかない。山の持ち主と話をすることが必要な時期かもしれない。森林税を利用したの対策も考えていきたい。

《質問・意見》

海上アクセスの問題。市長の公約であり、撤去はしたが借地代は今年度も予算計上されている。どう考えているのか。子宮頸がんワクチンについて、安全性の問題がでてきたが、市としては継続するのかやめる方向か、考え方を聞きたい。

《回答》

海上アクセスについては、借り入れの関係については、農協、漁協の理解をいただき、解決した。残り一つが土地の問題で、交渉の真っ最中。結論が出れば報告する。子宮頸がんワクチンについて、副反応の発生状況を親御さんに説明しながら、積極的にでない形で準備している。厚生労働省等とすりあわせをしながら対応していきたい。

《質問・意見》

宮川流域ルネッサンス事業が始まってから随分経っているが、宮川の鮎の漁獲量は減っている。漁業者に対する補償など、どういう取組みをしているのか。今後ルネッサンス事業はどのような方向で課題を解決していくのか。

《回答》

鮎が美味しい時期をPRしていくことが肝心。ルネッサンス事業はマンネリ化していて、再構築する時期であり、県と各市町と議論していきたいと考えている。

《質問・意見》

40年間、ビオトープ形式のケイトク植物園を運営している。1・2年以内に、“まちかど自然博物館”を立ち上げる。もうひとつ、“農業の歴史の里”。旧来の農法や農家興しとして5年くらいで作りたいと考えている。ご理解とご協力をお願いしたい。

《回答》

農業は日本全国大変な時代。TPPと遺伝子組み換えや種の保存が大きな課題。種があっただけでは再構築できない。種を植える時期、芽が出来てきてからの処理、収穫後の加工など、次世代へ引き継ぐことが必要。高齢化社会では、これまでの経験や実績を若い人に紡いでいくことが重要であるので、是非お願いしたい。